

令和元年度 第1回尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会
議事概要

日時：令和元年8月13日（水）14：00～16：00

会場：関東地方環境事務所 会議室

■議事

- (1) 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会の設置
- (2) 講演「尾瀬・日光のシカ対策の変遷」
宇都宮大学名誉教授 小金澤正昭
- (3) 尾瀬・日光国立公園におけるシカ対策の現状について
- (4) 尾瀬・日光国立公園シカ管理方針（骨子案）
- (5) その他

- (1) 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会の設置

尾瀬国立公園シカ管理方針を見直し、現状に即した広域管理のための体制構築を行うために、8月13日付けで尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会を設置することが承認された。

- (2) 講演「尾瀬・日光のシカ対策の変遷」 宇都宮大学名誉教授 小金澤正昭

■質疑応答

○山小屋組合

- ・ 講演の中で定住するシカがいるとのお話があったが、足尾地区では定住個体がいるが、尾瀬ヶ原地区での定住は考えられないという認識でよいか。

○小金澤名誉教授

- ・ 考えられないという認識でよい。積雪が3mを超えると餌を採ることができず、歩くこともできないため、越冬は不可能と考えられる。
- ・ 尾瀬沼も同じような考え方でよい。

○環境省

- ・ シカの捕獲について、足尾地域には越冬個体と定住個体がいるとのお話だったが、定住個体を捕獲して減らす方法と越冬個体を捕獲して減らす方法のそれぞれにおいて、留意する点や効率的な捕獲ができるような手法があれば教えて頂きたい。

○小金澤名誉教授

- ・ 定住個体と季節移動個体は、見かけ上で区別することはできない。ただ、GPS首輪のデータをみると、生息している場所に若干の違いがある。移動個体は山の高いところに生

息しており、定住個体は山の低いところに生息している傾向がある。

- ・ しかし、それは結果として見えてきたことであり、高標高と低標高を行き来している可能性もあるだろう。
- ・ 今の段階では、数を少なくすることに力を入れるべきだと考える。それによって個体数を少なくする方法が見えてくると思われる。

○環境省

- ・ シカの移動に関して、尾瀬のような多雪地には冬はシカが生息しないとのことであったが、春に南から北に移動していく個体が越えていく経路として、今はGPS首輪個体のデータがあり結果として実際に通った経路を特定している。これが、例えば、地形的に外輪山稜線の高いところを越えてくることは基本的には想定されないだろうか、春の時期には経路が特定されるという仮説は立てられるのか。仮説が立てられれば対策をする経路が地形的・環境的に絞り込めるのではないかと考える。

○小金澤名誉教授

- ・ それは実際にGPS首輪のデータを分析しないとわからない。むしろ、そういったGPS首輪データの分析を業務として依頼する進め方もあるのではないか。
- ・ 実際には季節移動個体がどういったルートを利用して移動しているのか見えていない部分がある。その点について、こちらとしても是非知りたいと思っている。

(3) 尾瀬・日光国立公園におけるシカ対策の現状について

■質疑応答

○関東森林管理局

- ・ シカの生息状況について、モニタリング結果のまとめでは福島県域は傾向不明とあったが、国有林ではやはり増加している実感がある。
- ・ 檜枝岐村や日光に接している南会津町でも森林内での被害が多く確認されている。
- ・ 南会津ではないが、茨城県と福島県の県境に位置する八溝山においても今年度に入りシカの被害が報告され、福島県、栃木県、茨城県で連携したシカ対策を行うという話もあるので、福島県においてもシカの被害は増えているという実感がある。

○小金澤名誉教授

- ・ 福島県の檜枝岐村における捕獲数の推移では、H26年度とH27年度は捕獲記録なしとあるが、実際には有害駆除は行われているがデータがないとのことでよかったか。

○事務局

- ・ 記録はないが、捕獲は行われている。

○大森主幹

- ・ 分布拡大域について話があったが、至仏山から西側に位置する武尊山においても群馬県のほうで2014年～2017年の間で調査を行ったが、湿原や森林林床においてもシカによる植生被害がみられている。
- ・ 川場村南部及び沼田市からみなかみ町南部にかけてもシカの越冬集団及び定住集団が確認されている。
- ・ 分布拡大は群馬県側でもみられ、尾瀬で確認されている植生被害に匹敵する被害が武尊山でもみられているという現状がある。

○奥田助教

- ・ これほどまでにGPS首輪を付けてモニタリングしている地域は、全国をみても北海道と尾瀬地域しかないだろう。GPS首輪データから得られた情報を対策に活かしていくということは重要である。
- ・ 南会津で研究をしている中で、栃木県でシカが増加し、あるタイミングで爆発的に増加した個体群が一気に分布拡大域に流入するということが見えてきた。この結果をふまえると、GPS首輪データのみにとらわれた対策を行っていくと後手を踏んでしまう可能性がある。
- ・ その地域や生息場所においてシカがどういった状況にあるのかをしっかりと把握し、これからどういった動きをするであろうかということを含めてシカの管理をしていくことが重要と考える。

(4) 尾瀬・日光国立公園シカ管理方針（骨子案）

■質疑応答

<資料4-1 シカ管理方針（骨子案）について>

○栃木県自然環境課

- ・ 日光地区の防除柵について、日光地区は元々シカが程よくいた地域なので、防護柵で完全に排除してしまうと植生に悪影響が出る可能性がある。先ほどの発表でミヤコザサ地区では柵外で木本が多く確認されているという報告や、日光白根山においてシラネアオイを守るために電気柵を張っているが、シカは排除できてもミヤマシシウドなどの植物が繁茂してしまい、シラネアオイが被圧されているという状況がある。シカの生息数は1か0ではなく、本来はシカが程よくいなければいけないということを加味した防護柵の管理方針にしておかないと、逆に希少な植物が減ってしまう可能性もあることを考慮して頂きたい。

○山小屋組合

- ・ 全体としてはシカの個体数を捕獲により減らしながら、守るべき植生は防護柵で守ると

いう考え方でよかったか。今年度、ヨッピーの南岸に植生保護柵を設置して頂いたおかげで、多くのニッコウキスゲが花をつけており感謝している。尾瀬全体の柵はできないので、今後も重点地区を決めて、守るところを守るという対策を現場の状況を見ながら継続して実施して頂きたい。

○奥田助教

- ・ 広域協議会の中で具体的な対策内容を決めて実施計画を策定することとなっており、実施するのは各県や各市町村となると思うが、これまでの群馬県・福島県・栃木県の捕獲状況を見るとほとんどが有害駆除と狩猟に限られている。そういった中で、効果的に実行性のある対策をそもそも実行できるのかということについて、どう考えているか。

○事務局

- ・ ご指摘の通り、捕獲数だけを見ると有害駆除と狩猟によって数を稼いでいる状況にあるが、これに加えて、3県で指定管理鳥獣捕獲等事業を活用した捕獲困難な高標高地域や越冬地での捕獲を実施して頂いている。
- ・ また、環境省では、今年は尾瀬ヶ原に加えて、尾瀬沼周辺でも銃による捕獲エリアを拡大しており、今後も尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺の捕獲は環境省が主体となって捕獲を強化していきたいと考えている。
- ・ 今後は、GPS 首輪データなどの情報に基づいて、作戦をしっかり練った上で、各県に指定管理鳥獣捕獲等事業をより活用してもらいながら、今捕獲ができていない捕獲困難地域等での捕獲を一層強化して頂きたいと考えている。

○栃木県西環境森林事務所

- ・ かつて尾瀬にシカはいなかったとあったが、最終的な目標として尾瀬では排除とすることか、シカが多少いてもよしとするのか。

○事務局

- ・ 先ほどの骨子案では、最終目標として「シカによる植生被害が最小化した状態」としているが、ご指摘いただいた通り、今まではシカを排除するという目標を立てていた。しかし、今の状況を考えるとシカを完全に排除することは現実的ではないと考えている。
- ・ 今後は完全な排除を目指すのではなく、一定の個体数のシカがいることは許容しつつ、被害を最小限にする状態を目指すことを考えている。

○栃木県西環境森林事務所

- ・ 現実的な話で、現在栃木県では、基本的には猟友会の方々に有害駆除や狩猟でシカ・イノシシの捕獲を行ってもらっている。どちらかという小平場で捕獲をしてもらっているが、それでも捕獲が十分でなく、かつ狩猟をする人は高齢化している。
- ・ そういった状況の中で、指定管理鳥獣捕獲等事業を活用したとしても5年の中で個体数

を半減するという目標は現実的ではないのではないか。

○事務局

- ・ ご指摘の通り、5年で個体数を半減することは、実際には相当達成が難しい目標だと思っている。必ず達成するというよりは、努力目標として、できるだけ半減に近づけたいという意気込みを記載しているところがある。
- ・ 環境省としては、2023年度までに全国でシカを半減させるという政府目標も踏まえつつ、できるだけ高い目標を掲げたいと考えているが、一方で、もっと現実的な目標がよいという考え方もあると思う。その点についても、皆様のご意見を頂ければと思っている。
- ・ また、おおむね半減を目指すにあたって、より捕獲が困難な地域で猟友会の方々だけでこれまでの手法で捕獲することには限界があることは承知している。
- ・ 最近の関東地方のシカ対策を見ていると、静岡県のように認定鳥獣捕獲等事業者の力を借りて捕獲数を伸ばすことに成功している事例もあるので、猟友会だけではこれ以上の捕獲が難しい地域では、認定鳥獣捕獲等事業者の活用も視野に入れて頂ければと思う。

<資料4-2 優先防除エリアの選定について>

○大森主幹

- ・ Aランク Bランクの中でも優先順位があるが、ランクが一つ低くても、今まさに被害が出ており今後さらに被害が拡大していくエリアを優先するのか、もうほぼ手遅れ状態にあっても植物種としてとにかく重要なものを守るのか、具体的な優先順位の戦略を決めておくべきであろう。実際に対策を実施するとなった際の、初動のマニュアルがあるとよいのではないか。

○事務局

- ・ これから被害を受けるだろう箇所を優先的にランク付けしており、重要な植物が生育していてもほぼ手遅れになっているエリアに関しては、緊急性を若干落としてランク付けしている。
- ・ 優先度の高いエリアの見直しや対策は、有識者の先生方のご意見を踏まえながら進めていきたいと考えている。

(5) その他

事務局より、シカ管理方針策定に係る今後のスケジュールを説明

■質疑応答

特になし。

以 上